



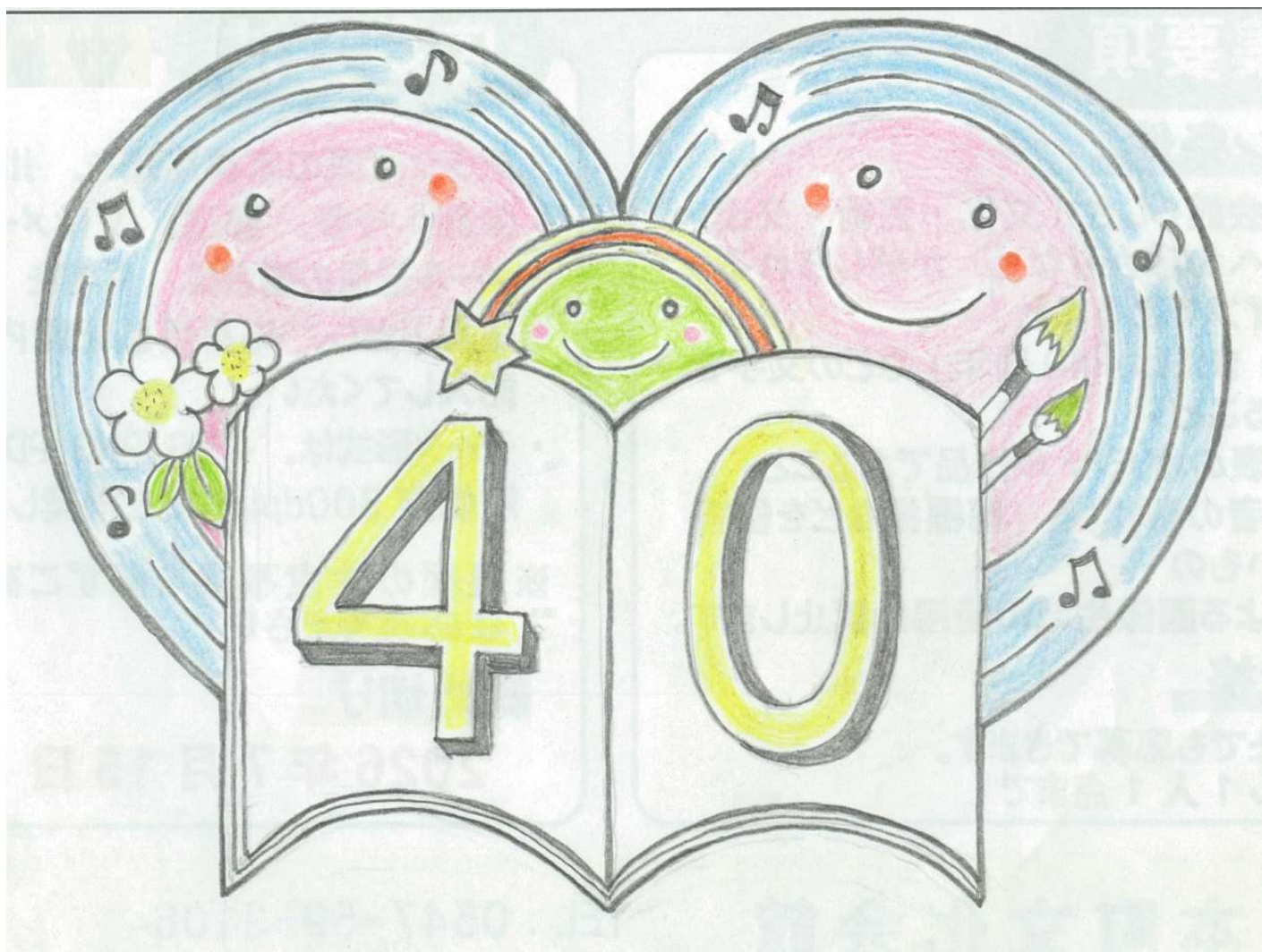
K A W A B U N

川根本町文化会館 40周年

川根本町を象徴する茶畑をモチーフにしたピアノで、親子が仲良く演奏する姿を表現しました。茶畑や葉には、地域の美しい自然と人々の暮らしへの想いを、音楽には文化会館で育まれる文化や交流への想いを込めています。40年間会館を支えてくださった利用者の方々への感謝とともに、これからも世代を超えて人と人がつながり、笑顔と文化が響きあう場所であり続けて欲しいという願いを表現しました。



山のふもとの斜面に建つこの川根本町文化会館は、駐車場のサイズの関係から、この会館の正面全体を見渡す機会があまりないのでは？と、訪れた時に思い、この40周年の記念に、改めて40歳になった会館正面の姿を記し、また、モノカラーバージョンにした時、その記念スタンプのように見えるよう、デザインしました。



大人も子供も心かようハートフルな交流ができる文化会館
川根の流れ星の様にキラキラ輝く未来
文化会館40周年という物語の新たな1ページ



正面から見た川根本町文化会館。その特徴ある屋根をシンボライズ。そこから発信される文化芸術の数々。ゼロの中のハートは40年間の感謝の心。また、貴文化会館Instagram「川文」の、アイコンのハートと掛けました。これからも、より多くの人々に集い親しまれ続ける貴文化会館のイメージです。



地域の人達が気軽に集まれる、親しみのあるあたたかい文化会館をイメージしました。森やお茶など豊かな緑の中に、小さい子どもからお年寄りまで、さまざまな世代が集まる様子をカラフルな色で表しました。カラフルな丸は、人と人とのつながりや交流の輪を表現しています。文化や芸術が生まれる場であり、明るい未来へ広がっていくデザインにしました。



「未来へ走る、長く親しまれる場所」をテーマに、40周年の「40」を未来へ続く線路で表現しました。線路は人や文化をつなぎ、次世代へ想いを運ぶ道を意味しています。また、「0」から広がる音符や人のシルエットは、文化会館から生まれる音楽・芸術・交流の輪と、その活動が未来へ広がる様子を表現しています。



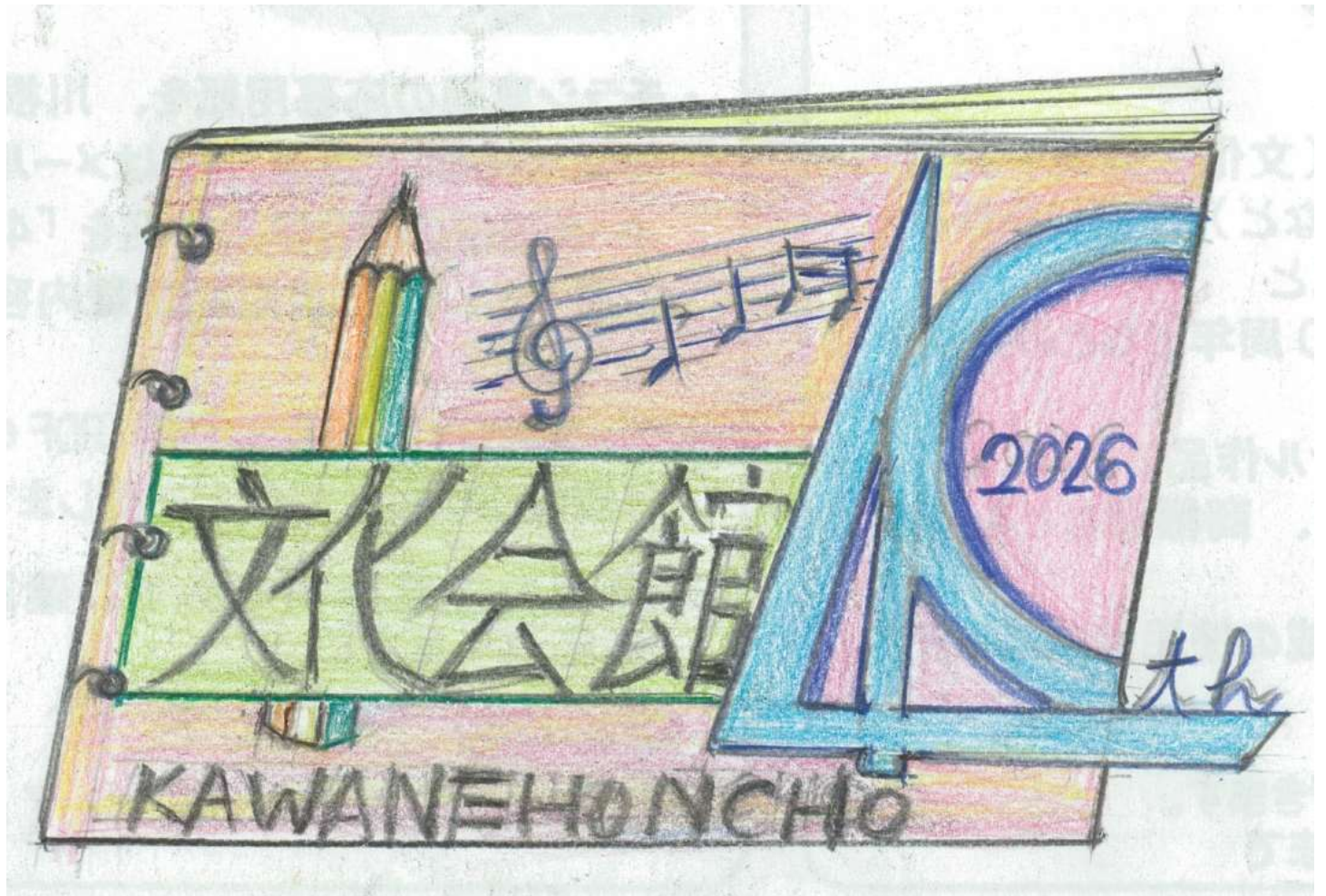
川根本町文化会館

Kawane Cultural Center since 1986

背景に描かれた鮮やかな緑の山々は、川根が誇る美しい自然と、地域に深く根ざしてきた川根文化会館の歩みを象徴としています。中央の「40th」に輝くゴールドは、これまでの輝かしい歴史と、支えてくださったすべての皆様への感謝の光です。特徴的な会館の佇まいをシンボルに据え、これからも地域の文化を育み、未来へとつないでいく決意を表現しています。



楽しい文化会館をイメージして、デザインしてみました。



文化会館をどう表現するか いろいろ考えてみましたがいいアイデアが浮かばず四苦八苦でした。でも大変楽しかったです。



中央の見開きの本は、文学や演劇の台本等、文化を育み伝える場を象徴し、添えた音符は演奏会等の多彩な芸術活動を表現しています。40のゼロの中に配した複数のサークルは、会館を支える多くの参加団体を、外周を彩る色とりどりの小さな円は、世代を超えて集い交流する人々の輪を表現しました。さらに川根の名産である茶葉の新芽を未来へ伸びる姿として描き、新たな文化が芽吹き、次の時代へと広がっていく未来を表現しています。